

「真に組合員の幸せ」を求めて

日本郵政グループ労働組合
中央執行委員長

山口 義和

2007年10月22日、「日本郵政グループ労働組合（JP 労組）」は、JPUと全郵政の組織統合（合同）により結成いたしました。

この歴史的な組織改革を、わずか10年前であれば、誰が予測できたでしょうか。構造変化は、私たちの想像を遙かに超え、国内外で加速しています。こうした歴史的転換期において未来を切り拓く鍵は、変化を見据えた明確な将来ビジョンと生きた情報に基づく戦略的な行動です。

JP 労組は、統合により22万人の組合員を抱える巨大単一組織となり、郵政事業について議論しているだけでは、組織としての義務や社会的責任を果たしているとはいえない立場となりました。憲法、安全保障、人権、エネルギー、環境問題等々、国の基本政策についても考察していく必要があります。

こうした多様な問題に取り組まなければならない状況の中、JP 労組とともにJP 総合研究所（JP 総研）は誕生しました。JP 労組が単一組織としてのその規模や活動が国内外から注目されているように、JP 労組組織内シンクタンクとしてのJP 総研への期待、そして責務も大きいものとなっています。

また、今後21世紀の郵政事業をはじめとする各種産業が新たな進化を遂げていく中、時代の先を見越した付加価値の高い情報（サービス）を収集・提供し、産業政策・社会政策等に関する調査研究を行うシンクタンクの役割はますます重要になっていくことでしょう。そして、このような取り組みにより、JP 総研、JP 労組、そして最終的には日本郵政グループ本体の企業価値も高まっていくものと考えられます。

JP 総合研究所に期待することは、①郵便物流および金融等を含む郵政関連事業を熟知し、学識経験者との意見を交えて、労働者の視点から調査研究を行うこと、②国民にとって不可欠な公共サービスとしての郵政事業の使命を独自の観点から調査研究すること、③福祉型労働運動の追求、④支部役員をはじめ組合員が真に望んでいる情報を公開しつつ、オープンに議論・情報交換できる機関となること——です。

JP 労組のシンボルフレーズである「友愛・創造・貢献」と「真に組合員の幸せ」の追求を念頭に、日本さらにはアジアや世界の郵政関連事業をはじめとする産業や社会の発展に貢献できるシンクタンクとなることを期待します。

JP 労組のナビゲーターとして

JP総合研究所
所長

米田 勇逸

郵政民営化と組織統合という歴史的なハードルを乗り越え、「JP 労組」は新たなスタート台に立つことが出来ました。

しかし、これからの道のりも決して平坦ではなく、山あり谷あり、時には出口のない迷路や殺伐とした荒野に迷い込む恐れもなしとはしません。また、新生JP 労組は自らの社会的存在とその責任について、旧組織以上に自覚的であらねばなりません。全国に22万余名の組合員を有するJP 労組の発言と行動は、単に組合員や経営側のみならず、民営郵政事業に関わる顧客、株主、政府、地域社会、NPOなど全てのステークホルダーに対して十分な説得力と説明責任を果たすものでなくてはならないからです。それだけにJP 労組は、四囲の状況や自らの主体的条件をしっかりと感知・分析する調査能力と、それらを的確な組織判断へと高めていく政策形成力が求められることとなります。

「JP 総合研究所」は、そうした機能を担うものとして中央本部の附属機関として設立されました。いわばJP 労組のナビゲーター的な役割を担うことが期待されています。ただ、道路探索のナビゲーターとは違って、組合の最終目的地は現に存在している特定の地ではなく、未だ可視できない茫洋とした地にあるという難しさ

があります。加えて基礎的なデータ蓄積や解析力が不足し、ノウハウも未熟という現実もあります。したがって、私たちはまずはJP 労組が位置する現在地の確認から始め、徐々にデータを集積させながら方向感覚を研ぎ澄ましていくことが重要と考えています。研究所としての本来機能を発揮するには暫く時間を要するかもしれませんが、組合員、関係者の皆様の叱咤激励をいただきながらスタッフ一同頑張っていく決意です。改めて総研に対するご支援を宜しくお願い申し上げます。

さて、総研が編集発行する政策情報誌『JP 総研リサーチ』の第1号をお届けします。『JP 総研リサーチ』は、総研の主な研究対象である郵政関連の産業政策や社会、労働政策、さらに組合活動に関する論文、情報などを年に4回程度発行し、各機関の活動に役立ててもらうことを目的としています。また、JP 労組内のコミュニケーションの場として現場や地域からの積極的な提言なども掲載し、誌上での相互研鑽を深めていきたいと考えています。本誌の性格上、多少肩苦しいテーマが並びますが、読まれ活用される誌面づくりに努めていきますのでどうぞご愛読いただくようお願い申し上げます。